

製品安全データシート

会社 株式会社コーテック
住所 〒225-0003 横浜市青葉区新石川3-3-1 西山ビル4F
担当者 咲間 毅
電話番号 045-910-6646 FAX番号 045-910-6647

整理番号： 0104

改定： 2001年3月30日

製品名 (商品名)： バスファイン・パテ

製品説明 (種類)： 紫外線硬化型パテ

物質の特定 単一製品・混合物の区分： 混合物
成分及び含有量 (危険有害物質を対象)：

成分名	Cas No.	含有量(%)	PRTR 対象物質	政令番号
該当成分を含有せず				

危険有害性の分類 分類の種類： 引火性液体。
危険性： 引火性のある液体である。
温度が高くなると引火性がある。
有害性： モノマー蒸気を吸引したとき、めまい、頭痛等の症状を起こすことがある。皮膚、粘膜に付着すると炎症を起こす。

応急処置 目に入った場合： 直ちに清浄な水で15分間以上目を洗浄した後、速やかに眼科医の手当を受ける。
皮膚に付いた場合： 直ちに石鹸を用いて、製品に触れた部分を水又は微温水を流しながら洗浄する。
汚染された衣類などは、速やかに脱ぐ。
かゆみ、炎症、痛みがある場合は直ちに医師の手当を受ける。
吸入した場合： 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動し、安静、保温に努め、至急医療処置を受ける手配をする。
呼吸が困難な場合は、衣類をゆるめ、呼吸道を確認した上で人工呼吸 (場合によっては酸素吸入) を行う。
飲み込んだ場合： 水でよく口の中を洗浄する。できれば被災者に水を飲ませ、口の奥を指で押し吐かせた後、口を水でゆすがせ、至急医療処置を受ける手配をする。

火災時の処置	消火法	: 初期の火災には、二酸化炭素、粉末消火剤などを用いる。 大規模火災の際には、泡沫消火剤などを用いて、空気を遮断することが有効である。周辺火災の場合、周囲の設備などに撒水して冷却する。
	消火剤	: 噴霧水・泡沫・二酸化炭素・粉末消火剤を用いる。
	消火時の注意	: 燃焼時に有毒ガスである一酸化炭素が発生するので、消火の際には保護具を着用し、風上より行う。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように、適切な処置を行う。

漏出時の処置	処理作業者に対する注意	: 着火源を速やかに取り除き、漏出した場所の周辺は関係者以外立ち入り禁止とする。作業中は、換気を十分にし、保護具（ゴム手袋、眼鏡、マスクなど）を着用し、漏出物を皮膚に付着したり、吸入しないように気をつけて作業を行う。着火した場合に備えて、消火用器財を準備する。
	環境に対する注意	: 漏出した製品が河川等に排出されたり、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
	漏出物の処理に対する注意	: 少量の場合は、布や乾燥砂等で直ちに除去し、容器に収納する。大量の場合は、土砂などで堰を作って流出の防止を図ると共に、火源を絶ち消火用器財などを用意し、火災の発生防止に努める。保護具を着用し漏出液を可能な限り容器に回収する。残った液は、布や乾燥砂等で吸収し、容器に収納する。可能な限り回収後、水で洗い流す。（汚染水の排出が適切に処理されるように注意する）

取り扱い及び保管上の注意	取扱い	: 十分に換気がなされている場所で取り扱う。飛散した液、蒸気が吸入されたり、皮膚・粘膜に付着したり、目に入らないように保護具（ゴム手袋、眼鏡、マスク等）を着用して取り扱う。 作業区域には緊急用のシャワーと洗眼器を設置する。休憩場所には、手洗い、洗顔などの設備を設け、取扱い後に手、顔などをよく洗うこと。また休憩場所には、汚染した保護具を持ち込まないこと。取扱場所周辺での着火源となりうるもの（高温物、火気等）の使用を禁止する。
	保管	: 容器は密閉し、火気、熱源より遠ざけ、換気の良い乾燥した冷暗所に保管する。 危険物設備で保管し、酸化性物質、有機過酸化物と一緒に置かない。

暴露防止処置	管理濃度	: 指定なし	
	許容濃度	: 指定なし	
	設備対策	: 取扱いは換気装置を設備した場所で行う。 防災シャワー、手洗い、洗顔設備の設置。	
	保護具	呼吸用保護具	: 有機溶媒用マスク
		保護眼鏡	: 側板付普通眼鏡型、ゴーグル型
		保護手袋	: ゴム手袋
保護衣		: 保護服（静電気対策が施されているもの） 保護帽等	

物理・化学的性質

外観等	: 灰白色の液体
臭気	: アクリルモノマー臭
比重	: 1.28 / 20℃
沸点	: --
蒸気圧	: --
溶解度	: 水に不溶、有機溶媒に可溶
引火点	: 175℃

危険性情報

発火点	: --
爆発範囲	: (下限) -- (上限) --
安定性・反応性	: 常温以下では比較的安定であり、通常の手扱いにおいてはほとんど危険性はない。高温、直射日光の照射で安定性が悪くなる。不活性ガスでシールした場合でも、重合反応を起こす場合がある。過酸化剤、強い酸化剤と接触すると発熱を伴う重合反応を起こす場合がある。

有害性情報 特に情報を有していない。

環境影響情報 有機溶剤等を含有しているため漏洩時、廃棄等の際には、環境に影響を与える恐れがあるため取扱いに注意する。特に製品や洗浄液が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

廃棄上の注意 燃焼処理を行う場合、有毒ガスである一酸化炭素が発生するため燃焼排ガスの処理対策を講ずる。
空容器を処分するときは、内容物を完全に除去した後、処分する。

輸送上の注意 容器に漏れないことを確かめ、容器の転倒、落下、摩擦等、容器が破損しないよう積み込み荷崩れ防止を確実に実施する。
混載する場合は、消防法危険物Ⅰ類、第6類及び高圧ガスとは混載してはならない。

適用法令 消防法 危険物 第4類 第3石油類

付記

ここに記載されている情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。
記載内容は、現時点で当社が入手できた最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には、未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の安全取扱いに関する決定は、使用者の責任において行ってください。

以上